

平成9年5月21日
宇宙開発事業団

NASDA/CNES 共催日仏宇宙協力シンポジウムの開催について

宇宙開発事業団（NASDA）と仏国立宇宙研究センター（CNES）は、宇宙活動に関する共同シンポジウムを下記のとおり平成9年5月27日、28日の両日仏国パリ市において開催します。このシンポジウムは昨年11月のシラク仏国大統領来日の際、日仏首脳ご臨席のもとでNASDA及びCNESの機関長により署名された宇宙分野の長期協力推進のための機関間取決めで謳われています。

また、このシンポジウムは平成9年4月から10年3月まで仏国全土で開催される「仏国における日本年」のイベントの一つとして位置づけられています。

記

1. シンポジウムの目的

- ・NASDA/CNES協力の強化
- ・将来の協力の可能性の模索

2. 主催

NASDA及びCNES

3. 開催日

平成9年5月27日、28日の2日間

4. 開催場所

仏国パリ市内 ホテル ソフィテル・サンジャック

5. プログラム

5月27日	開会の辞
	セッション1 太陽系探査と天文学
	セッション2 地球観測・気候変動
	セッション3 地球観測・災害監視
5月28日	セッション4 有人宇宙活動
	セッション5 宇宙技術利用の展望
	セッション6 将来へのビジョン
	閉会の辞
	記者会見

配付資料-1 NASDA/CNES長期協力取決めの概要

2 日仏宇宙協力シンポジウム共同議長、発表者等一覧

NASDA（宇宙開発事業団）／CNES（仏国立宇宙研究センター） 長期協力取決めの概要

「宇宙計画分野における長期協力の準備に関わる仏国立宇宙研究センターと宇宙開発事業団との間の機関間取決め」の概要は以下のとおり。

(1) 経緯

- 平成8年3月 NASDAとCNESの間の会合にて、両機関の協力の可能性を検討するため、常設の作業部会を設置。
- 平成8年9月 両機関間で同作業部会の枠組について検討を実施。
- 平成8年10月 CNESより、本年11月のシラク仏大統領訪日にあわせて、本取決めを締結してはどうかとの提案があり、日仏両国の関係機関と調整。
- 平成8年11月 橋本総理とシラク仏大統領御臨席のもと、両機関の長により署名。

(2) 概要

- ① 本取決めは、NASDA及びCNESによる将来の長期協力に関わる情報交換及び協議のためのガイドライン・枠組みの設置を目的とする。
- ② 長期協力のための、現時点における主要な関心分野は、以下の4分野である。
 - ・ 地球環境及び気候変動
センサの相互搭載、データ検証・実証、実用目的のデータ交換、データの応用手法の開発、情報ネットワークによるデータ配布
 - ・ 有人宇宙活動
宇宙ステーション利用方針と技術に関わる情報交換、実験設備の相互利用並びに実験機器の共同開発及び利用
 - ・ 将来ミッションのための検討
ミッション解析及び管理の検討及び応用
 - ・ その他
情報ハイウェイ用インフラストラクチャーのための宇宙システム開発に関わる協議、国際惑星探査ミッションにおける協力機会の模索、人材交流、共同シンポジウムの開催
- ③ 将来新たな関心分野が発生した際には、両機関合意の上、検討を行う。
- ④ 長期協力に関わる検討のために、共同戦略部会（Joint Strategy Group）を設置し、既存のNASDA／CNES会合における長期協力作業部会に換える。
- ⑤ 長期協力に関わる検討について、広報活動を行う際には、互いに調整し、合意の上、実施する。

○開会の辞（5月27日9：15～10：15）

日本側	フランス側
内田勇夫宇宙開発事業団理事長 長柄喜一朗宇宙開発委員	Alain Bensoussan: CNES 総裁 Jacques-Louis Lions: 仏科学アカデミー会長

○各セッション共同議長及びスピーカー

Session 1: 太陽系探査と天文学（5月27日10：45～12：30）

	日本側	フランス側
共同議長	松尾弘毅宇宙科学研究所教授	Pierre Lena: 仏科学アカデミーメンバー、パリ第7大学教授、 パリ・ムドン天文台
スピーカー	鶴田浩一郎宇宙科学研究所教授 「日本の月・惑星計画について」	Michel Bland: 中部ピレネー天文台 「仏宇宙計画における太陽系研究及び天文学」
	小川原嘉明宇宙科学研究所教授 「日本の天体観測衛星計画について」	Yves Langevin: 宇宙天文物理学研究所 「太陽系探査将来ミッションと国際協力展望」

Session 2: 地球観測・気候変動（5月27日14：00～15：45）

	日本側	フランス側
共同議長	鳥羽良明NASDA 首席研究員（地球観測担当）	Robert Dautry: 仏原子力庁諮問委員会議長
スピーカー	住明正東京大学気候システム研究センター長 「気候変動に係わる宇宙活動」	Jean-Francois Minster: 仏国立科学センター天文科学研究所 「フランスの気候変動研究及び国際計画への貢献」
	柳瀬武紀日本電気支配人 「気候変動研究のための地上及び宇宙システム」	Gerard Megie: ピエール&マリー・キュリー大学 「気候変動研究将来ミッションと国際協力展望」

Session 3: 地球観測・災害監視（5月27日16：00～17：45）

	日本側	フランス側
共同議長	大熊健司科学技術庁官房審議官	Xavier Le Pichon: 仏科学アカデミー会員、 コレージュ・ド・フランス教授
スピーカー	谷口一郎三菱電機常務取締役 電子システム事業本部長 「災害監視のための地上及び宇宙システム」	Jean-Louis Le Mouel: 仏科学アカデミー会員、 パリ地球物理学研究所 「陸域における災害監視と管理の向上に対する宇宙の貢献」
	坂田俊文地球科学技術推進機構機構長 「全地球災害監視と情報システムのコンセプト」	Andre Morel: ピエール&マリー・キュリー大学 「沿岸地帯における災害監視と管理の向上に対する宇宙の貢献」

発表者等

Session 4: 有人宇宙活動 (5月28日8:30~10:20)

	日本側	フランス側
共同議長	黒田勲早稲田大学人間科学部教授	Alain Berthoz: コレージュ・ド・フランス知覚行動生理学研究所長
スピーカ	毛利衛宇宙開発事業団有人宇宙活動推進室長 「NASDAの有人宇宙活動」 松井隆宇宙開発事業団顧問 「日本の有人宇宙計画」 角南英二川崎重工航空宇宙事業部宇宙機設計部 主査 「有人サポート技術の展望」	Claudie Andre-Deshays: CNES宇宙飛行士 「有人ミッションにおける科学実験」 Jacques Seylaz: 仏国立科学センター 「ライフサイエンスと宇宙実験」 Daniel Beysens: 仏原子力庁 「微小重力下における材料凝縮: 課題と将来展望」

Session 5: 宇宙技術利用の展望 (5月28日10:45~12:35)

	日本側	フランス側
共同議長	下村尚久経済団体連合会宇宙開発推進会議 企画部会長	Pierre Haren: ILOG会長
スピーカ	末永雅士東芝情報通信・制御システム事業本部 技師長 「宇宙ロボティクスの現状と将来」 浅井達朗日産宇宙航空事業部宇宙技術部部長 「宇宙インフラ技術の展望」(ローバーの話) 眞子雅太石川島播磨宇宙開発事業部副事業部長 「宇宙実験の展望」	Jean-Claude Husson: Alcatel General Director and CEO 「アルカテル社と日仏宇宙協力」 Michel Delaye: Aerospatiale Director General of Space branch 「アエロスパシアル社と日仏宇宙協力」 Armand Carlier: Matra-Marconi Space General: CEO 「マトラ社と日仏宇宙協力」

Session 6: 将来へのビジョン (5月28日14:00~15:25)

	日本側	フランス側
共同議長	内田勇夫宇宙開発事業団理事長	Alain Bensoussan: CNES総裁
スピーカ	安来慶治三菱重工宇宙機器部長 「将来の宇宙システムへの期待」 村山英敏宇宙開発事業団理事 「21世紀に向けての長期構想」	Michel Courtois: CNES Deputy Director 「21世紀へ向けての宇宙技術」 Jean-Yves Le Gall: CNES Deputy Director-General 「日仏宇宙協力: 将来ビジョン」

○閉会の辞 (5月28日16:00~16:30)

日本側	フランス側
下村尚久経済団体連合会宇宙開発推進会議 企画部会長 大澤弘之宇宙開発事業団顧問	Alain Bensoussan: CNES総裁 Jacques-Louis Lions: 仏科学アカデミー会長